

## 多様性を尊重できる八王子市へ ～どんな人も自分の色を表現することができ、自分らしく生きられるまちに～

### Hachioji, the city that respects diversity ～A place where everyone can express their true colors and live authentically～

グループ名：Harmony

八谷 瑠美, 井関 春香, 細川 幸成, 猪俣 友莉菜, KO HYOMIN, 橋本 美紀, 宮本 温  
指導教員 中山 雅司

創価大学 法学部 法律学科 中山ゼミナール

キーワード：性的マイノリティ, インクルーシブ, 多様性, 理解促進, SDGs

#### 【はじめに】

近年、性的マイノリティに関する話題が多く取り上げられている。八王子市は、人権に関する多くの政策はあるが性的マイノリティの方への支援は他に比べて手薄になっているように思われる。私たちは、「あなたのみちをあるけるまち。八王子」のように、彼ら、彼女らにもありのままに暮らせる街をつつていきたい。そこで、性的マイノリティの方が自分らしく暮らせる街づくりの提案を行う。

#### 【現状・問題分析】

1. 八王子市における性的マイノリティの人口の予測  
日本全体の性的マイノリティの割合は、LGBT 総合研究所(2019)によると約 10.0%となっており、左利きの人の数とおおよそ等しい。

つまり、八王子市の人口が 560,913 人であることから、その 10%にあたる約 56,000 人が八王子における性的マイノリティの人口と推測される。

#### 2. 性的マイノリティが抱える課題

##### ① 現状

社会全体として性的マイノリティに関する言葉が浸透しておらず、理解が進んでいないのが現状である。厚生労働省(2020)によって行われた性的指向・性自認に関連する言葉の認知に関する調査によると、「性的自認」、「アウティング」という言葉を知っており、かつ意味も分かると答えた人はそれぞれ、22.9%、6.7%、と低い数値となっており、LGBT に対する認識が未だ広まっていない。

八王子市の市政世論調査(2023)でも、性的マイノリティに対して抵抗があると答えた人の割合は 22.8%となっており、言葉の浸透度と人々の意識は低い状況にある。

##### ② 課題

こうした人々の意識から、性的マイノリティは様々な悩みや課題を抱えている。三菱UFJリサーチ&コンサルティング(2019)によると、職場で困りごとを抱える性的マイノリティの割合は、LGB(レズビアン、

ゲイ、バイセクシュアル)が 36.4%、T(トランスジェンダー)が 54.5%である。中でも、LBT の 12%が「異性愛者として振る舞わなければいけない」、T の 22.8%が「自認する性と異なる性別で振る舞わなければいけない」と答えている。性的マイノリティを対象にした政策において、八王子市が掲げる「あなたのみちを、あるけるまち」の実現のためには、当事者たちが自分らしさを発揮できるよう、さらなる努力が必要である。

加えて、認定 NPO 法人 ReBit (2022) によると、保護者、教職員に相談できないと答えた性的マイノリティの割合はそれぞれ、91.6%、93.6%となっており、上記のような悩みがありながらも、相談相手がいない傾向にある。

#### 3. 八王子市の課題

##### ① LGBT 電話相談の体制

八王子市では、こういった課題に対し LGBT 電話相談を行っているが、令和元年～令和 4 年の 4 年間で利用された回数は年平均約 14 回にとどまっている。利用可能日は 2023 年にはわずか 4 日であり、利用時間も午後 15:30～18:30 と限られている。

相談窓口の対象者は、当事者のみならずその他すべての人であり、56,000 人よりも何倍もの多くの人が対象となっている中、14 回の利用回数は圧倒的に低い数値であり、潜在的に悩みを抱えている人々までアプローチできていない。

##### ② 当事者に限られた支援

八王子市では、市営住宅や霊園の申込・手続きを親族と同等の形で進められる東京都パートナーシップ宣誓制度を活用している。しかし、これだけでは性的マイノリティ当事者に対しての非当事者の意識改革まではアプローチができず、2. 性的マイノリティが抱える課題で述べた課題の根本的な解決策には至らない。

ここから、性的マイノリティ当事者と非当事者の両者に特有の現状と課題が浮かび上がってくる。当

事者は周囲の偏見により悩みを相談できず、個性を抑圧される。非当事者側は、当事者への理解不足による偏見から差別的言動を行い、当事者を傷つけるのである。このような現状は個人の範疇にとどまらず、社会全体に見られ、当事者たちを孤立させる。

### 【提案】

以上の現状、課題分析から性的マイノリティの方の支援者や理解者を増やし、性的マイノリティの方々が自分らしく暮らせる街を目指して3点提案する。

#### 1. LGBT 電話相談の改善と周知

八王子市が現在行っている LGBT 電話相談に対し2点提案する。1点目は、相談窓口の開設時間と回数の変更である。現状の開設時間は15:30~18:30で、学業や仕事があると電話をかけにくい時間帯である。インタビューで年平均の利用回数も14回であると分かった。そのため、八王子市にいと推定される性的マイノリティの人数と照らして考えると、相談できない人たちがいることが予想される。そのため、開設時間を16:00~20:00に変更し、回数も現状の年4回から、月1回のペースとなるよう12回に増やし利用者数の拡大を図る。

2点目は、ポスターやホームページですでに八王子市が謳っているように、この電話相談を当事者だけでなく友人や家族も利用できることを以下の広報のツール等を用いて強調する。そして誰が相談に応じているのかを明確にし、電話相談の信頼性を高めることが求められる。そうすることで性的マイノリティを守ることができ、非当事者も電話相談を通して理解を深めることができると考える。

#### 2. 性的マイノリティに関する広報の作成と普及

性的マイノリティについての関心を深めて、性的マイノリティに関する知識をもった理解者と支援者を増やせるよう、パンフレットの作成を提案する。パンフレットで作成した資料やデータは市報への転載も可能になると考えられる。これにより関心の有無に関わらず多くの八王子市民に情報が行き届き、理解を促進するきっかけを作り出すことができる。

#### 3. 虹色グッズ作成

今回のインタビューを通して、八王子市が性的マイノリティに関する研修を市役所職員に対して行い、講演会を市民に対して行っていることがわかった。そこで虹色グッズの作成と配布、そして着用を提案する。



図：宮崎市のグッズ着用写真例

この虹色グッズは、性的マイノリティの理解者や支援者は誰なのかわかりやすくし、当事者の味方や理解者であることをアピールするためのものである。そのため、研修や講演会に参加して正しい知識や認

識を得た方に虹色グッズを配布、そして率先して着用してもらう。

### 【おわりに】

以上3点の提案を通して、性的マイノリティの人々が抱える不安の解消に繋がり、地域社会の性的マイノリティに対する理解促進を図ることができると考える。さらに、こうした取り組みがSDGsの5, 8, 10の達成に繋がり、多様性を尊重する都市として、日本における八王子市の存在感の向上に貢献することができると考える。

これらの取り組みを通して、八王子市が掲げる「あなたのみちを、あるけるまち。八王子」により近づき、ひとりひとりが尊重される街になることができると考える。

### 【参考文献】

- ・厚生労働省(2020)『V. 調査結果のまとめ』  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000625161.pdf>
- ・東京都総務局人権部(N.D.)『東京都パートナーシップ宣誓制度』  
<https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/10jinken/sesaku/sonchou/partnership.html>
- ・八王子市(2023)『町丁別世帯数及び人口報告表』  
[https://www.city.hachioji.tokyo.jp/hachioji/jinko/004/p032354\\_d/fil/0508matibetu.pdf](https://www.city.hachioji.tokyo.jp/hachioji/jinko/004/p032354_d/fil/0508matibetu.pdf)
- ・八王子市(2023)『LGBT 電話相談』  
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/003/003/lgbt/p024783.html>
- ・八王子市(2023)『第55回 令和5年 市政世論調査』p.212  
[https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/002/005/004/p003054\\_d/fil/R5053bijyon.pdf](https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/002/005/004/p003054_d/fil/R5053bijyon.pdf)
- ・福岡県(2023)『ふくおかレインボーホットラインを開設!』  
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/press-release/hukuokarainbowhotline.html>
- ・三菱UFJ リサーチ&コンサルティング(2019)『多様な人材が活躍できる職場環境に関する企業の事例集』  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000630004.pdf>
- ・宮崎市(2017)『ALL Y (アライ) 活動に取り組んでいます!』  
<https://www.city.akita.lg.jp/shisei/hoshin-keikaku/1011480/1033991.html>
- ・LGBT 総合研究所(2019)『「LGBT 意識行動調査 2019」を実施、公表』  
<https://lgbtri.co.jp/news/2410>
- ・NHK ハートネット(2018)『LGBT と”アウティング”』  
<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/28/>